

「いやあ先生、よくもまあ、これだけ手間暇かけた教育をされていますね。土づくりから始めて非常にいいに、しかも自然に子どもを育てておられる。この学校の教育はまるで無農薬の、言ってみれば有機栽培農業のようですよ」

学校見学を終えた訪問者との談話で、このような言葉をいただいたことがあります。

「即効性を求めて強い薬を使うなどということは絶対にしない。実践のご様子からそんな気概を感じます。子どもを同じ規格にはめず、たとえ形は不ぞろいでもそれぞれの味がしつかりある…そんなふうに育てようと思われているんですね」

なぎさ公園小学校の教育の本質を見抜き、最大の賛辞をくださった、そんな気がして胸がいっぱいになりました。

教育とは、インスタントでお手軽にできあがるものではないと私は思っています。注がれた教育がいつどんな形で実を結んでいくのか、誰にもわからないのです。それでも信じて子どもに関わり続け、子どもが自ら歩む、その歩みの手引きをする…本当に、教員とは、子どもの心を耕し、学びの種をまく人のようなことはありませんか。

もちろん、すべてが順調ではありませんでした。やってみて初めてわかることばかりで、子どもたちに対して申し訳ない、と思うことも多くありました。「なぎさの学び」の発展のかげには、かかわった先生方すべての大変なご苦労があったことは言うまでもないことです。ともに汗と涙を流し、悩み挑戦し続けた先生方のご尽力のたまものです。

この本をまとめるにあたっては、鶴学園総長であり理事長の鶴衛先生のあたたかいご理解とご支援をいただ

きました。心より感謝申し上げます。また、設立準備から苦勞をともしした、なぎさ公園小学校の第3代校長白岩博明先生、第2代教頭染井真吾先生、算数科教科主任田中裕美先生、河府清志事務長先生、そして、第3代教頭田中みどり先生には資料集めに大変お世話になりました。また、多忙な中、各学習の細部を確認するために力を貸してくださった諸先生方に厚く御礼申し上げます。

何より、開校から6年間、なぎさ公園小学校のアカデミックアドバイザーとして、その後も初中等教育研究センター長、さらに学園理事として教員を導いてくださいました松谷英明先生に、心から感謝申し上げます。松谷先生のご指導によって、「教育づくりの魂」が私たちに吹き込まれ、心奮い立ち、挑戦し続ける精神が育まりました。ありがとうございます。

最後に、ほんの森出版の兼弘陽子様には深謝申し上げます。2011年夏頃から体調を崩し、秋に入院するなど私の執筆ペースが大幅に遅れたにもかかわらず、根気よく原稿を待ち、時に背中をそっと押し出すあたかい言葉掛けをしてくださいました。ありがとうございます。

「一粒の花の種は地中に朽ちず、終に千林の梢に登ると謂うことも候へ」

穀田屋 十三郎（生没年不詳）

なぎさ公園小学校の土台をつくるお手伝いできたことを誇りに思います。

なぎさっ子一人ひとりが、はるかな未来で輝きを放つ日に想いをはせながら。

2012年3月

福原 之織